

2023年度 第2四半期決算

2023年10月26日
富士電機株式会社

皆さんこんにちは。経営企画本部を担当しております荒井でございます。

1.	2023年度 第2四半期実績(対前年)	P. 3
2.	2023年度 第2四半期実績(対7/27予想)	P. 12
3.	貸借対照表・キャッシュフロー計算書	P. 14
4.	2023年度 業績予想(対7/27予想)	P. 17
5.	剰余金の配当	P. 19
6.	補足資料	P. 21

1. 2023年度 第2四半期実績 (対前年)

第2四半期累計 連結業績概要 (対前年)

売上高、営業損益、経常損益、純損益は過去最高を更新

	(単位: 億円)		
	2022年度	2023年度	増減
売上高	4,471	4,917	446
営業損益 (営業利益率)	267 (6.0%)	350 (7.1%)	83 (1.1%)
経常損益	289	346	57
特別損益	57	49	-9
税金等調整前 四半期純損益	346	395	49
法人税等	113	126	13
非支配株主に帰属する 四半期純損益	30	25	-5
親会社株主に帰属する 四半期純損益	203	243	41

(期末レート: 9月末)		(単位: 円)	
US\$	144.81	149.58	+4.77
EURO	142.32	158.00	+15.68
RMB	20.37	20.46	+0.09

(平均為替レート)		(単位: 円)	
US\$	133.97	141.00	+7.03
EURO	138.73	153.39	+14.66
RMB	19.88	19.75	-0.13

売上高増減	
海外子会社の為替換算差による増収	+50
需要増	+395

営業損益増減	
物量・生産増	+137
固定費増	-109
為替影響	+10
その他*	+45
	+83

*コストダウン、価格変動、機種構成差等

営業外損益増減	
金融収支	-6 (11 → 5)
為替差損益	-2 (21 → 18)
その他	-17 (-10 → -27)
	-25 (22 → -4)

特別損益増減	
投資有価証券売却損益	-16 (63 → 48)
その他	+7 (-6 → 1)
	-9 (57 → 49)

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

4

それでは私から、2023年度上期決算につきまして、対前年でご説明をいたします。

売上高、営業損益、経常損益、純損益ともに、上期としては過去最高を達成できました。売上高につきましては、446億増の4917億、為替の影響を除きますと、実質395億円の増になります。

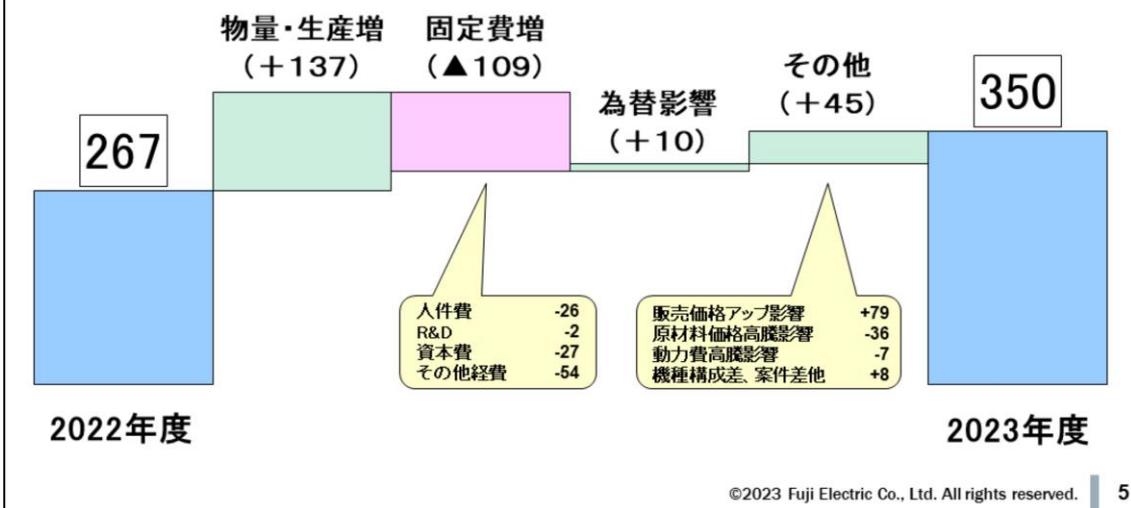
営業損益は83億増の350億、営業利益率で7.1%。この利益率も上期では過去最高になります。経常損益は57億増の346億、営業外損益でマイナスの25億、内訳としては金融収支において配当の減等でマイナスの6億、その他ではマレーシアの事業転換費用、媒体事業から半導体事業に転換する費用の増加がありました。トータルとしてマイナス25億の減ということで営業外損益を計上しております。

経常損益が57億増の346億、特別損益が9億の減、絶対額で49億です。投資有価証券売却損益として政策保有株式の売却益等で48億計上していますが昨年に比べ16億減少しています。その他としてはプラス7億、トータルすると9億のマイナスになります。当期純損益については41億増の243億でした。

第2四半期累計 営業損益増減分析 (対前年)

原材料価格や人件費等の固定費増による悪化影響があるものの
物量・生産増や販売価格アップ等により増益

(単位:億円)



営業損益は前年の267億に対して350億になりましたが、主要因は物量・生産増です。半導体の電装分野、施設・電源システム、ファクトリーオートメーションといったところが寄与しています。

一方、器具分野は計画比、前年比ともにマイナスで市場環境が非常に厳しくなっています。固定費は人件費、減価償却費を含めた資本費の増に加え、経済の回復に伴う旅費や交際費などの管理可能経費の増、外注委託費の増などにより109億増加しています。

為替でプラス10億、その他として、原材料価格、動力費の高騰を、半導体、ファクトリーオートメーション、自販機の事業を中心とした販売価格のアップでカバーし45億のプラスとなりました。

第2四半期累計 セグメント別売上高・営業損益 (対前年)

売上高は、発電プラントを除くセグメントで増収
営業損益は、パワエレインダストリー、半導体、食品流通を主因に増益

(単位:億円)

	2022年度			2023年度			増減		
	売上高	営業損益	営業利益率	売上高	営業損益	営業利益率	売上高	営業損益	営業利益率
パワエレエネルギー	1,156	96	8.3%	1,228	87	7.1%	72	-9	-1.2%
パワエレインダストリー	1,502	11	0.7%	1,712	50	2.9%	211	39	2.2%
半導体	970	149	15.4%	1,085	168	15.5%	115	18	0.1%
発電プラント	348	-5	-1.4%	325	1	0.3%	-23	6	1.7%
食品流通	448	32	7.2%	532	54	10.2%	84	22	3.0%
その他	286	15	5.4%	313	21	6.6%	27	5	1.2%
消去または全社	-239	-32	-	-279	-31	-	-40	1	-
合計	4,471	267	6.0%	4,917	350	7.1%	446	83	1.1%

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

6

第2四半期累計のセグメント別の業績について説明をいたします。

パワエレエネルギー、インダストリー、半導体、食品流通で増収、残念ながら発電プラントは前年に大口の案件があった関係で減収でした。営業利益は、エネルギーが器具分野の悪化により減益ですが、その他の部門は増益となりました。

第2四半期累計 セグメント別概況①(対前年)

(単位:億円)

		2022年度	2023年度	増減	概況
パワエレ	エネルギー				
	売上高	1,156	1,228	72 +19*	エネルギーマネジメント 9%増収 産業向け変電機器及び電源機器の大口案件の増加等により、売上高は前年同期を上回りましたが、営業損益は案件差等により、前年同期を下回りました。 施設・電源システム 27%増収 国外のデータセンター及び半導体メーカー向け案件の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 器具 10%減収 セットメーカー及び半導体製造装置関連の需要減少等により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
	営業損益	96	87	-9 +3*	
	インダストリー				
売上高	1,502	1,712	211 +11*	オートメーション 8%増収 ファクトリーオートメーションにおけるコンポーネントの生産増を主因に、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 社会ソリューション 16%増収 放射線機器案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 設備工事 26%増収 空調設備工事の大口案件等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 ITソリューション 17%増収 公共及び文教分野の大口案件等の需要増により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。	
営業損益	11	50	39 +2*		
*為替影響					©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

セグメントごとに詳しくご説明いたします。

パワエレ エネルギーは、売上高が72億増、営業損益がマイナスの9億でした。プラス要因としては施設・電源システムで、シンガポールにある電機盤の子会社が大幅に増収増益、データセンターおよび半導体メーカー向けに案件が増加しています。一方、マイナス要因としては先ほど申し上げました器具分野で大幅に減収減益。国内外、特に海外で半導体製造装置メーカーや機械セットメーカー向けの需要が減少しております。

パワエレ インダストリーは、売上高で211億増、営業損益で39億の増でした。特にオートメーションが増収増益となっており、ファクトリーオートメーションのコンポーネントを中心に生産増が寄与しています。社会ソリューションでは放射線機器、設備工事では空調設備の大口案件の獲得、ITソリューションでは公共・文教分野の大口案件の獲得により、4部門全てで増収増益でした。

第2四半期累計 セグメント別概況②(対前年)

(単位:億円)

		2022年度	2023年度	増減	概況
半導体	売上高	970	1,085	115 +19*	電動車(xEV)向けパワー半導体の需要拡大により、売上高は前年同期を上回りました。 営業損益は、パワー半導体の生産能力増強に係る費用の増加、原材料価格の高騰があったものの、 売上高の増加により、前年同期を上回りました。
	営業損益	149	168	18 +6*	
売上高内訳		2022年度	2023年度	増減	
産業		553	498	-55	
電装		417	587	171	
発電プラント	売上高	348	325	-23	前期の再生可能エネルギーの大口案件の影響により、売上高は前年同期を下回ったものの、 営業損益は案件差及び原価低減の推進等により、前年同期を上回りました。
	営業損益	-5	1	6	
食品流通	売上高	448	532	84	自販機 16%増収 国内の需要拡大に加え、原価低減の推進等により、 売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 店舗流通 21%増収 コンビニエンスストア向け店舗設備機器の改装需要拡大に加え、カウンター機材案件の増加により、 売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
	営業損益	32	54	22	
				*為替影響	©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

半導体事業は産業分野が55億の減収、電装分野で171億の増収ということで、トータルでは売上高で115億、営業損益で18億の増になります。産業分野は、ファクトリーオートメーション向けやエアコン向けで減収。電装分野は電動車向けが非常に好調で前年に比べて大幅な増収増益でした。パワー半導体には積極的に投資をしており、資本費は増加しています。また、原材料価格も高騰していますが、これらを打ち返して増収増益となっています。

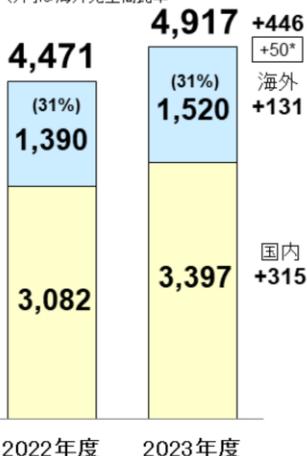
発電プラントは23億の減収、6億の増益でした。前年に地熱で海外の大口案件があった影響で減収でしたが、損益面では案件差や原価低減などにより6億の増益となりました。

食品流通は、84億の増収、22億の増益ということで、自販機、店舗流通ともに増収増益でした。自販機部門は飲料メーカーの需要増により増収増益。店舗流通部門もコンビニエンスストア向けの改装案件やカウンター商材の売上増などにより増収増益でした。

第2四半期累計 国内/海外・地域別売上高 (対前年)

中国の減収を他地域でカバーし増収

(単位:億円)
○内は海外売上高比率



(単位:億円)

	2022年度	2023年度	増減	
海外	1,390	1,520	+131	+50*
アジア他	664	784	+120	+26*
中国	479	430	-49	+3*
欧州	130	183	+52	+17*
米州	116	124	+7	+4*

*為替影響

エネルギーマネジメント +20
施設・電源システム +110
器具 -20
オートメーション +13
半導体 +40
発電プラント -42

器具 -11
オートメーション -11
半導体 -27

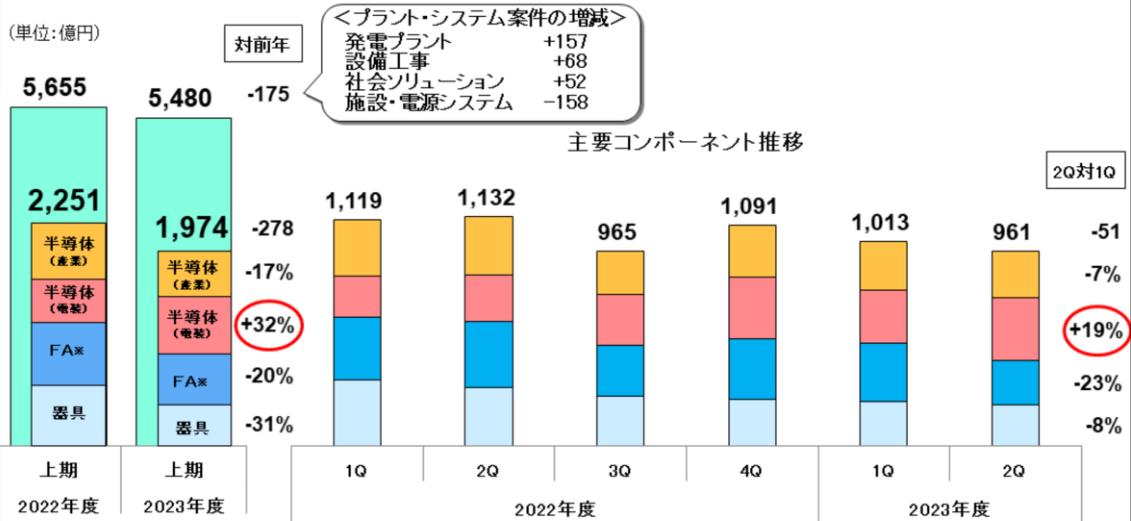
オートメーション +9
半導体 +43

エネルギーマネジメント +6
器具 -7
社会ソリューション +9
発電プラント +6

国内外の売上高の増減です。トータルで446億増ですが、海外で131億増、国内で315億増ということになります。海外の131億の増ですが、やはり中国が非常に苦戦をしており49億の減収。器具、オートメーション、半導体で軒並み前年割れとなっております。一方、アジアは120億の増、施設・電源システム、半導体などでプラスになっています。欧州も52億の増、半導体を主体に増えています。やはり海外でも器具分野はマイナスとなっています。

第2四半期累計 主要コンポーネント 受注高

半導体(電装)は好調継続も、主要コンポーネントを主因に減少



※FA: 低圧インバータ、回転機、FAコンポーネント、計測機器

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

10

上期の主要コンポーネントの受注高推移です。

全体の受注高は前年同期比175億減の5480億ということで、プラント系は非常に好調に推移しましたが、コンポーネント系は278億減でした。半導体の電装分野は32%増でしたが、産業分野、器具分野、ファクトリーオートメーション分野でマイナス。ファクトリーオートメーションは前年に先行受注があったことも影響しております。資料右側に22年度から23年度の推移を載せておりますが、2023年度の2Q対1Qは、半導体の電装は19%のプラスですが、半導体の産業、ファクトリーオートメーション、器具はマイナスとなっています。

第2四半期累計 主要コンポーネント 売上高

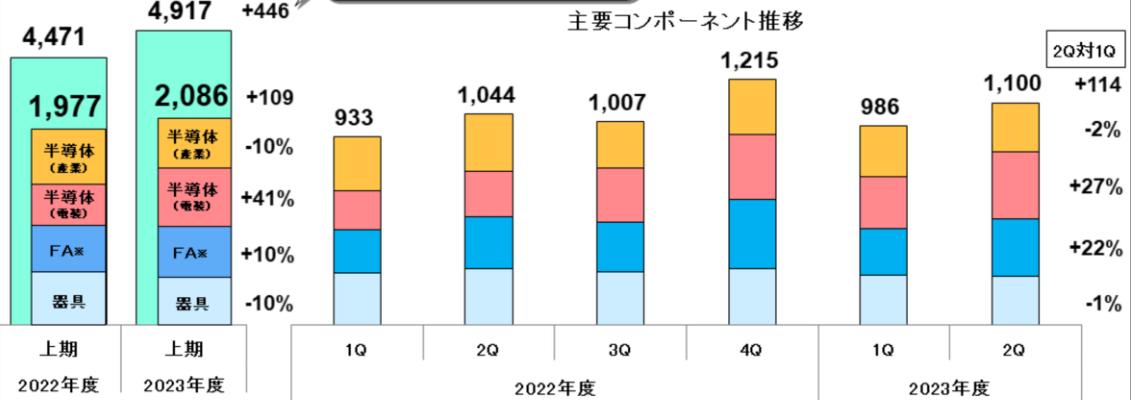
半導体(電装)、FAを主因に増加

(単位:億円)

対前年

<プラント・システム案件の増減>
 施設・電源システム +112
 設備工事 +78
 ITソリューション +53

主要コンポーネント推移



※FA: 低圧インバータ、回転機、FAコンポーネント、計測機器

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

11

上期の売上高の比較です。前年の受注が堅調だったこともあり、プラントシステム、コンポーネントともに増収、全体で446億増の4917億、主要コンポーネントでは109億増の2086億でした。半導体の電装につきましては41%増、ファクトリーオートメーションについても前年からの注残の消化により10%の増となりました。前Q比でも電装とファクトリーオートメーションはそれぞれ27%、22%の増となっています。一方、半導体の産業と器具は、前年比、前Q比ともにマイナスでした。

2. 2023年度 第2四半期実績 (対7/27予想)

第2四半期累計 連結業績概要 (対7/27予想)

全セグメントで営業損益は上振れ

(単位:億円)	7/27予想	実績	増減	
売上高	4,740	4,917	+96*	177
営業損益 (営業利益率)	300 (6.3%)	350 (7.1%)	+17*	50 (0.8%)
経常損益	275	346		71
親会社株主に帰属する 四半期純損益	195	243		48

(単位:億円)	7/27予想		実績		増減			
	売上高	営業 損益	売上高	営業 損益	売上高	営業 損益		
パワエレ エネルギー	1,240	84	1,228	87	+13*	-12	+1*	3
パワエレ インダストリー	1,600	30	1,712	50	+32*	112	+4*	20
半導体	1,050	155	1,085	168	+47*	35	+12*	13
発電プラント	310	0	325	1		15		1
食品流通	520	50	532	54		12		4
その他	310	18	313	21		3		3
消去または全社	-290	-37	-279	-31		11		6
合計	4,740	300	4,917	350		177		50

*為替影響

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

13

7月に発表した上期の予想と上期実績の比較です。

売上高で177億増、営業損益で50億増、経常損益で71億増、純損益でも48億増といずれもプラスとなりました。セグメント別に見ても、営業損益については全セグメントで増益、売上高は器具事業の影響でエネルギーだけ減収ですがその他は増収でした。

3. 貸借対照表・ キャッシュフロー計算書

第2四半期末 連結貸借対照表 (対前年度末)

資産の部				負債、純資産の部			
	23/3/31	23/9/30	増減		23/3/31	23/9/30	増減
現金及び預金	847	601	-246	買入債務	2,016	1,896	-120
売上債権	3,885	3,523	-362	有利子負債	1,833	1,570	-263
棚卸資産	1,987	2,348	361	その他負債	2,246	2,306	60
その他	417	548	132	負債 合計	6,095	5,772	-323
流動資産 計	7,136	7,021	-115	資本金	476	476	-
有形固定資産	2,839	2,925	86	資本剰余金	460	460	-
無形固定資産	240	258	18	利益剰余金	3,649	3,807	158
投資その他の資産	1,600	1,525	-75	自己株式	-74	-74	-0
固定資産 計	4,679	4,708	29	株主資本	4,511	4,669	158
繰延資産	1	0	-0	その他の包括利益累計額	660	742	82
資産 合計	11,816	11,729	-86	非支配株主持分	550	547	-3
ネット有利子負債※1	991	974	-17	純資産 合計	5,721	5,958	237
ネットD/ELレシオ※2	0.2倍	0.2倍	-0.0倍	負債・純資産 合計	11,816	11,729	-86
自己資本比率	43.8%	46.1%	2.4%				

※1 ネット有利子負債：有利子負債-現金及び現金同等物
 ※2 ネットD/ELレシオ：ネット有利子負債 ÷ 自己資本

前期末と上期末とのバランスシートの比較です。

売上債権は順調に回収が進み362億の減少、棚卸資産はプラント系を主体に361億増、有形固定資産は半導体を主体に86億の増。投資その他の資産は政策保有株式の減などにより75億の減となりました。2018年度末に100数社あった政策保有株式は2023年度末には1桁台、数社にまで絞り込む計画です。総資産は86億減の1兆1729億、現金を246億減らし、有利子負債を263億減らしました。利益剰余金も増え、純資産は237億の増です。ネット有利子負債が17億減の974億、ネットDEレシオは0.2倍、自己資本比率が46.1%となりました。

第2四半期累計 キャッシュフロー計算書 (対前年)

(単位:億円)

	2022年度	2023年度
I 営業活動によるキャッシュフロー	599	348
II 投資活動によるキャッシュフロー	-107	-216
I + II フリー・キャッシュフロー (FCF)	492	132
III 財務活動によるキャッシュフロー	-357	-419
IV 現金及び現金同等物の期末残高	1,109	596

キャッシュフローの比較です。

営業活動によるキャッシュフローは内部留保で490億プラスですが、運転資金の増等で142億マイナスで348億の増。投資活動によるキャッシュフローは半導体の設備投資を主因として216億のマイナスで、上期のフリーキャッシュフローは132億でした。

4. 2023年度 業績予想 (対7/27予想)

通期 連結業績概要 (対7/27予想)

直近の動向を踏まえ、前提為替レートおよびセグメント別の業績予想を修正

(単位:億円)	7/27予想	10/26予想	増減		下期の前提為替レート			
					US\$	EURO	RMB	
売上高	10,600	10,600	+125*	0	7/27予想	¥130.00	¥145.00	¥18.50
営業損益 (営業利益率)	960 (9.1%)	960 (9.1%)	+20*	0 (0.0%)	10/26予想	¥140.00	¥150.00	¥19.50
経常損益	945	945		0	為替感応度* (億円)	0.1	0.8	1.5
親会社株主に帰属する 当期純損益	645	645		0	*営業損益ベース(10-3月の6ヶ月影響) US\$, EUROは1円円安変動影響、RMBは1%円安変動影響			

(単位:億円)	7/27予想		10/26予想		増減			
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高		営業損益	
エネルギー	3,370	292	3,320	270	+37*	-50	+5*	-22
インダストリー	4,030	325	4,060	326	+38*	30	+6*	1
半導体	2,250	338	2,230	343	+48*	-20	+11*	5
食品流通	960	50	990	65		30		15
その他	600	34	600	38		0		4
消去または全社	-610	-79	-600	-82		10		-3
合計	10,600	960	10,600	960		0		0

※2023年10月1日付の事業組替を反映しています

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

*為替影響

18

7月に開示した通期の連結業績予想と今回の業績予想の比較です。

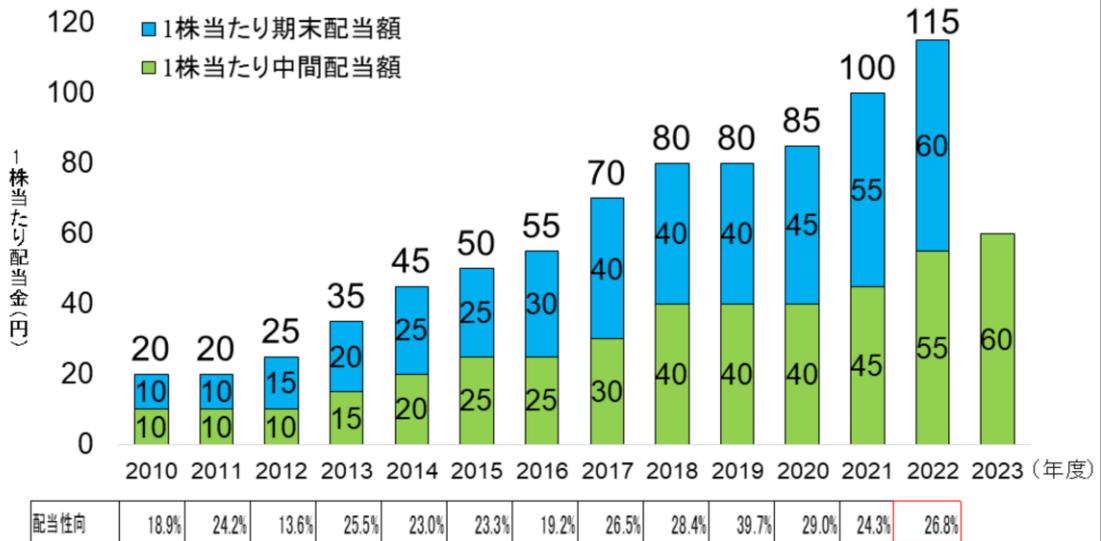
基本的に売上高、営業損益、経常損益、当期損益いずれも変えず、1兆600億の売上高、960億の営業損益、経常損益で945億、当期純損益が645億と据え置いています。為替は変更しています。

セグメントの内訳は、事業部門によってプラスマイナスがあり、エネルギー部門については、器具分野を主因として売上でマイナスの50億、営業損益で22億のマイナスを織り込んでおります。インダストリー分野は、若干のオートメーションのマイナス、半導体売上は産業分野のマイナスを織り込んでいます。食品流通は自販機、店舗流通ともにプラスで増収増益という内容です。

5. 剰余金の配当

剰余金の配当

中間配当は1株当たり60円で決定



※2010年度から2018年度上期まで(株式併合前)は5株当たり配当額

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

中間配当です。

前年同期の中間配当と比較すると5円増の60円になります。期末配当も前年同期を上回る配当としたい。安定的に継続的に増配していきたいと考えております。

上期決算は、前回の業績予想を上回りましたが、中国経済の低迷が継続していることに加え、ウクライナ危機の長期化、新たに下期から始まった中東情勢の不安定化ということで世界情勢の不透明感が高まっています。本日の株式市場、為替市場を見ましても、不透明感が増してきているように思います。

そういったことを踏まえ、全社の業績予想は変更せず、セグメントの内訳で器具を主体としたコンポーネントの業績を保守的にまとめたという内容です。

今回の業績予想を下限として、社内の実行計画では売上高も損益も目標を高く設定しています。私見になりますが、営業損益は今回の業績予想を下限として大台を目指し上積みを図っていきたく考えています。

為替レートが今の水準で継続すれば、営業利益で20億程度上振れ、経費においても上期の状況を踏まえると、おそらく下期も2桁億円は削減可能だと考えています。

私からの説明は以上です。

6. 補足資料

補足資料

■器具受注高

	2Q(対1Q)	2Q(対前年)
全体	-8%	-29%
国内	-13%	-35%
海外	+8%	-11%

上期(対前年)
-31%
-33%
-26%

■低圧インバータ受注高

	2Q(対1Q)	2Q(対前年)
全体	-14%	-52%
国内	-28%	-64%
海外	-7%	-44%

上期(対前年)
-45%
-51%
-42%

■半導体受注高

	2Q(対1Q)	2Q(対前年)
全体	+7%	+4%
産業	-7%	-20%
電装	+19%	+34%

上期(対前年)
+4%
-17%
+32%

■自販機受注高

	2Q(対1Q)	2Q(対前年)
全体	-12%	+8%

上期(対前年)
+16%

補足資料 通期 連結業績概要 (対7/27予想) 事業組替前

(単位:億円)	2023年度 7/27予想	2023年度 10/26予想	増減
売上高	10,600	10,600	0
営業損益	960	960	0
(営業利益率)	(9.1%)	(9.1%)	(0.0%)
経常損益	945	945	0
親会社株主に帰属する 当期純損益	645	645	0

(単位:億円)	2023年度 7/27予想		2023年度 10/26予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
パワエレ エネルギー	2,770	273	2,730	250	-40	-23
パワエレ インダストリー	3,820	302	3,840	304	20	2
半導体	2,250	338	2,230	343	-20	5
発電プラント	830	42	830	42	0	0
食品流通	960	50	990	65	30	15
その他	600	34	600	38	0	4
消去または全社	-630	-79	-620	-82	10	-3
合計	10,600	960	10,600	960	0	0

補足資料 通期 連結業績概要 (対前年)

(単位:億円)	2022年度 実績	2023年度 10/26予想	増減
売上高	10,094	10,600	+82* 506
営業損益	889	960	+14* 71
(営業利益率)	(8.8%)	(9.1%)	(0.3%)
経常損益	878	945	67
親会社株主に帰属する 当期純損益	613	645	32

(単位:億円)	2022年度 実績		2023年度 10/26予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	3,333	286	3,320	270	+31* -13	+4* -16
インダストリー	3,698	268	4,060	326	+25* 362	+3* 58
半導体	2,062	322	2,230	343	+24* 168	+8* 21
食品流通	953	44	990	65	37	21
その他	598	37	600	38	2	1
消去または全社	-549	-67	-600	-82	-51	-15
合計	10,094	889	10,600	960	506	71

*為替影響

※2023年10月1日付の事業組替を反映しています

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

補足資料 下期 連結業績概要(対前年)

(単位:億円)	2022年度 実績	2023年度 10/26予想	増減	
売上高	5,623	5,683	+31*	60
営業損益 (営業利益率)	622 (11.1%)	610 (10.7%)	+4*	-12 (-0.4%)
経常損益	589	599		9
親会社株主に帰属する 四半期純損益	411	402		-9

(単位:億円)	2022年度 実績		2023年度 10/26予想		増減		
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益	
エネルギー	1,887	197	1,857	183	+12*	-29	+1* -13
インダストリー	2,143	255	2,263	274	+13*	120	+0* 20
半導体	1,092	172	1,145	175	+5*	53	+3* 3
食品流通	505	11	458	11		-46	0
その他	312	22	287	17		-25	-5
消去または全社	-316	-35	-328	-51		-12	-16
合計	5,623	622	5,683	610		60	-12

*為替影響

※2023年10月1日付の事業組替を反映しています

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。